風水害
備えは大丈夫？

■「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、生命と財産に大きな被害をもたらす災害は、毎年のように発生しています。

日常的な感覚では想像もできないほど、自然の状態が急激に変化し、対応が間に合わないということも少なくありません。

台風や大雨に備えて、油断せず、日頃から家や周囲の点検をして、必要な箇所の修理、補強をしておきましょう。

◎大雨災害に備えて

■**山間地域**
山崩れに注意が必要です。山崩れは集中豪雨ばかりではなく、地震によっても発生します。特にシラス地帯は、崩れやすいので注意しましょう。

■**急傾斜地**
がけ崩れに注意が必要です。がけ崩れは、豪雨などによって突然起きます。

■**河川地域**
河川の流域や、かつて河川敷だったところは、豪雨によって洪水に見舞われるおそれがあります。

■**海岸地域**
満潮のころ接近する台風は高潮に注意して下さい。特に低い地域では厳重な警戒が必要です。

◎台風災害に備えて

台風のもたらす災害はきわめて甚大ですが、被害を少なくすることや未然に防ぐことは可能です。

■**台風が来る前に**
家の外（窓や雨戸、側溝や排水溝など）・家の中（非常用品、断水等の備え）を確認する。

■**台風が接近しているとき**
台風情報、注意報、警報に気を付ける。危険な場所に近づかない。避難の準備をする。

■**危険が迫ったら**
危険を感じたり避難指示が出たら、誘導員の指示に従い、慎重に行動する。避難の際は持ち物を最小限にし、背中に背負うなどして両手が自由に使えるようにしておく。必ず火の始末をする。

自主防災組織の結成を

■自主防災組織は、地域住民が自分たちの地域は自分たちで守るという自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織です。災害発生時に、災害による被害を予防し、軽減するため、実際に防災活動を行う組織として結成されることが望ましいです。

組織の役割としては、**普段から防災知識の普及、地域の災害危険の把握、防災訓練の実施、火気使用設備器具の点検、防災用資機材の整備等**を行うとともに、**災害時においては、情報の収集・伝達、出火防止、初期消火、住民の避難誘導、負傷者の救出・救護、給食・給水等**を行うことが期待されます。

■普段から、人々の交流を通じて地域の安全や防災に対する関心や意識が高まり、自主防災活動が活発になっていくことが期待できます。また、自主防災を契機として失われがちな地域住民の連帯意識を高めていくことも可能です。

◎自主防災組織の問合せ
総務課危機管理対策係
TEL72-1111 内線214

土砂災害警戒情報に注意を

■この情報は、土砂災害の発生の危険性が非常に高まったときに発表されます。防災無線や広報車から自主非難の呼びかけなどがあったら避難の準備をするなど早めの避難に心がけてください。

市内の避難所

危ない！
と思ったら
すぐに避難

※避難所を確認してください

■第一避難場所（台風・大雨・洪水等）

避難予定場所	避難地域	位置	電話
健康センター	枕崎地区	日之出町231	72-7176
市民会館	枕崎地区	千代田町114	72-2221
松之尾センター	枕崎地区	汐見町260	72-9289
立神センター	立神地区	大塚南町129	72-1693
別府センター	別府地区	別府東町574	76-2010
城山センター	桜山地区	桜山町256-1	72-2267
金山センター	金山地区	田布川町463	72-9690

鹿児島県総合防災訓練
大災害を想定した大規模訓練で連携を強化

■県総合防災訓練が5月17日、枕崎港外港や市総合グランドなどで実施され、64機関、約1，500名が参加しました。

防災関係機関が相互に緊密な連携を保ちながら情報連絡、伝達、救出、救護、避難誘導、災害復旧等の災害応急対策が迅速、適切に行われるよう防災体制の確立を図ることを目的とした訓練で、枕崎市での開催は29年ぶりとなりました。様々な関係機関が連携し、溺水者をヘリコプターで救出するなど迫力のある本格的な訓練に、見学者は歓声を上げながら観覧していました。

県災害対策本部長である伊藤知事は、終了式で「災害はいつどこでも起こりうる。自助・共助・公助が連携し防災の一層の充実を」とあいさつしました。

《想定》
今朝8時頃の鹿児島県枕崎市を震源とする地震により、枕崎市において、家屋倒壊や崖崩れ等による要救出現場が発生するとともに、火災が多発し延焼している模様であり、一部の集落については、道路の寸断により孤立した可能性がある。
なお、多数の負傷者が発生しているとの情報も入っている。
また、指宿・川辺に大雨・洪水警報・暴風・波浪・高潮警報が発表され、大規模な山崩れ、がけ崩れ、堤防の決壊などへの厳重な警戒が必要である。

花渡川に徒橋を架設

様々な訓練を実施

▲地震による堤防損壊に加え台風による高潮のおそれが高まったという想定のもと、台場公園周辺の住民が避難する。

▲まくらざき保育園で行われた避難訓練。竜巻注意情報の発令を受け、園児を屋内に誘導する。

▲県災害対策本部長の伊藤知事が各会場を視察。花渡川に架設した徒橋を渡るなど、訓練の成果を確かめた。

▲倒壊家屋からの救出訓練。救急隊とDMAT（災害派遣医療チーム）が連携し、負傷者への応急処置などを行う。

▲宇宙航空研究開発機構（JAXA）の映像伝送システムを用いて、避難所や被災地からの映像を災害対策本部に伝える。

▲大量の油が海上に流出。海上保安庁が薩摩半島南部地区排出油防除協議会に連絡し、防除作業訓練を行う。